

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	広島修道大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヒロシマシュウドウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	特殊講義b(海外インターンシップ)
	学部・研究科等名	経済科学部
	担当教職員名・役職	佐藤准教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	1
	受入企業等名	Satven社
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
要素②	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インドのハイデラバードにあるSatven社で9日間に渡りエンジニアとチームを組んだ実習やインド工科大学ハイデラバード校の訪問、インド文化の体験を組み合わせたものである。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
要素③	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年生以上を対象に、正規授業がない夏期休暇中に主専攻科目(専門科目)として実施している。履修を希望する学生に対して、履修に先立ち各企業の説明と必要な注意事項を説明するとともに、志望動機を書面で提出することを求め、面接により履修の可否を決定している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
要素③	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ先の国の経済・歴史・文化および受入れ先企業の業界知識等について事前学習の中に取り入れ、効果的なインターンシップが実施できるよう配慮した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中の日報をもとに帰国後に実習全体を振り返り、報告書にまとめ、その内容に沿ったプレゼンテーション資料を作成し、海外インターンシップ報告会として発表を行った。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)		

要素④	4-1. インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1. はい
	4-2. 該当する教育的効果を測定する仕組み	1. アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2. 以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施前に各学生の履修目的および目標を明確にし、受入れ先企業の実習内容に反映した。そしてその目的・目標と照らし合わせて、どのような気づき・成果を得たかを報告書の形式で明文化することで効果を可視化するとともに、報告会のプレゼンテーションの内容を教員が講評することによって、学生の成長を確認している。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1. はい
	5-2. 該当する実施期間	1. 連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2. で「1. 連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	9日間
	5-2. で「2. 事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「3. 複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ先と共に調整したプログラムに基づき9日間の期間を確保した。	
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1. 企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	担当教員と受入先の広島支店が相互に訪問し、実習内容について相談し覚書を取り交わす。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.shudo-u.ac.jp/
問い合わせ先	大学等名	広島修道大学
	担当部署名	教務第1課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	中広 年秀
	電話番号	082-830-1304
	メールアドレス	nakahiro@js.shudo-u.ac.jp